

## 平成21年度 第2回市民活動サポートセンター運営委員会 会議概要

平成21年8月20日(木) 18:30~20:00

横須賀市立市民活動サポートセンター

出席委員 11名…井上、加藤、河村、木曾、佐倉、鷹野、根本、本間、前川、増田、渡辺

事務局 2名…市民生活課 三富、堀井

指定管理者 3名…NPO法人YMCAコミュニティサポート 田邊、神山、大島(理)

傍聴者 0名

### 1 報告事項

- ・スタッフの神山さんが9月いっぱいまで退職、新スタッフ大島理恵子さんの紹介の後、次第に沿って報告を行った。
- ・パイプ椅子50脚を9月から貸し出し備品とする。

### 2 審議事項

#### [意見概要]

##### 1-(2) 利用状況・利用者の声について

(委員)

情報化支援の「よこすカレンダー」とは何か。

(指定管理者)

サポートセンターホームページのトップページにあるカレンダーで、団体からの申し込みによりイベント情報等とリンクさせている。

提案として、以前から所有していたパイプ椅子50脚を9月から貸し出し備品とすることとしたい。

##### 1-(4) 設立10周年記念事業の進捗について

(指定管理者)

10周年記念事業は①オープンディ②記念フォーラム③記念報告書の3つの事業を柱として実施し、のたろんフェアへ繋げていく。オープンディはサポートセンターを知らない人たちに少しでも知ってもらうために開放するが、記念フォーラムは登録団体や今までサポートセンターに関わった方々を中心に10年間の振り返りと今後のサポートセンターのあり方を考える機会とするなど、それぞれに目的が異なる。

(委員)

何をやっているか外からは分かりにくいと思うので写真などを利用してどんなことをやっているか分かるように工夫してはどうか。

のたろんフェア実行委員会の進捗について教えて欲しい。

(指定管理者)

委員長は石原さん、副委員長は四分一さんで実行委員は14名。2月13日(土)、14日(日)にどぶ板バザールと併せて開催する。

(市民生活課)

サポートセンター設立10周年については、広報よこすか10月1日号に掲載される。9月12日のオープンディには取材がくるので是非来場して盛り上げて欲しい。

##### 2-(1) 市民公益活動団体について

(委員)

今回、登録団体が多いのはどうしてか。

**(指定管理者)**

昨年度末に削除されて改めて登録しなおした団体が多い。今回登録した 19 団体のうち、更新切れで登録しなおした団体が 8 団体、新規団体は 11 団体である。

**(委員)**

登録の見直しをした成果はあったか。

**(指定管理者)**

全く利用しない団体を抹消できてよかった。逆に、今回始めて見直しをしたので申請書や資料を改めて出すという意識が低い団体も多かった。利用しているのに登録しない場合には何度も連絡したが、締め切りを過ぎたので削除した団体がある。また、何年も前の資料をそのまま使っていたが、活動目的や内容が変わってくる団体もあるため、今回見直しを行ったのはよかったと思う。

**(委員)**

データベースの信憑性を確保するために見直しをすることは必要である。

**(委員)**

10年目で初めてデータベースの見直しをして、現段階では今後どのような形で見直しを続けるのかも決まっていないが、少なくとも3年に1度など期間を決めて見直した方がよい。

**(委員)**

公益性の判断について、福祉分野は公益になりやすいと感じるが、他の分野では公益の判断は難しい。例えば、夕陽を見ることは本当に公益性があるのか。

**(指定管理者)**

観察を続けることで、夕陽の見え方が変わり、空気の汚れや環境の変化が分かるため、環境保護を考えるということが活動目的に入っている。

**(委員)**

公益かどうか判断するだけでなく、こういう風にすると活動が広がるとサポセンからアドバイスをしたらよいのではないか。

**(指定管理者)**

公益を出さないという方向ではなく、団体の活動目的などを聞いたうえで判断している。

**(委員)**

サポートセンターは色々な活動の仕方を知っているのだから団体の活性化につながるアドバイスもできるし、そうした活動を広げるように促すことも役割の一つではないか。

**2-(2) 団体アンケートについて**

**(市民生活課)**

今年設立10周年を迎えるにあたって、サポートセンターの10年間を振り返るとともに、これからのサポートセンターのあり方を考える格好の機会として、改めて団体の実態及びニーズを調査・分析し、今後サポートセンターがどのような団体支援ができるのか考えていきたいということでアンケートを作成した。内容について委員のみなさまから意見を伺いたい。アンケートの目的は、団体の活動実態やサポートセンターの利用状況について現状を把握し、利用団体の活動内容やニーズに沿った支援を行うための基礎資料とするということである。対象はサポートセンターの登録団体。期間は9月いっぱい、その後集約をして11月1日の記念フォーラムで活用できるようにしたいと考えている。

**(委員)**

設問がどのように活用されるのか分かるように具体的に書いてほしい。最初の文章でもう少し突っ込んで何をしたいからこのようなアンケートをするか団体側に伝わるようにしてほしい。

### (市民生活課)

サポートセンターには趣味のサークルから社会的な課題を解決するような市民団体、事業系の団体まで様々な団体が利用している。現在は打合せや印刷などオフィスコンビニ的な支援機能が主だが、団体の形態によって必要な支援が変わってくると考えられる。登録している団体の活動実態を把握することによって、どのような支援を重点的にするべきかという傾向を知る目的で活動実態調査を行う。利用状況調査は、団体が実際どのように利用しているかということ进行分析することによって、もっと使いやすいサポートセンターが見えるのではないかと考えている。利用満足度調査は、今まで団体の満足度調査をしていなかったため、项目的なアンケートをとることによって、改めてサポートセンターを利用してよかったかどうか団体の意見を知り、今後のサポートセンターのサービスに反映・改善していきたいと考えている。

### (委員)

今まで団体アンケートを取っていなかったのは遅いと思うが、基礎資料を持つことは必要。

### (指定管理者)

団体の実態調査から、どんなことに団体が困っているかを把握し、今後の支援サービスで必要なのは団体の繋がりを作る取組みなのか、資金の作り方の講座なのかを知り、ハードだけではないサポートにシフトしていけたらよいと考えている。

### (委員)

設問によってはここまで立ち入るのかとってしまうものもある。実際の状況を把握することは必要だが、団体を納得させる工夫が必要。

### (委員)

アンケートに答えること自体には抵抗はないが、設問の内容レベルが高すぎる。登録団体のレベルや活動内容にあった設問の仕方を工夫すべき。

### (委員)

実態調査は登録時に書いているのでアンケートと整理した方がよい。

### (委員)

ソフトとハードが混じっている。団体登録申請書と内容がダブっているのであれば申請書も整理していく必要がある。

### (委員)

アンケートは難しい。色々工夫を凝らしても必ず苦情が出てくる。包括したタイトルや内容を考える。頭だしをもう少し具体的にしたら良いのではないかと。

### (委員)

取り合えずやってみてはどうか。今日の意見を反映できるものは反映して加除訂正をしてほしい。

### **その他（意見交換会について）**

#### (委員)

会社を休まなければ出席できないので、数回に1回は時間帯をもう少し遅くしてほしい。

### (市民生活課)

当初から都合のつく方に来て欲しいという提案だったが、検討する。

以上